書評

J・J・ルッソーの一著書目録

——ルッソー死亡百七十五年をむかえて——

縫田清二

一 書物

SÉNELLIER, Jean

Bibliographie générale des oeuvres de J.-J. Rousseau
(Ouvrage publié avec le concours du Centre National de
la Recherche Scientifique). Paris, Presses Universitaires
de France, 1950.

282 p. 25×161/2cm.

今年はジャン・ジャック・ルッソー Jean-Jacques Rousseau
(一七二一—七八)の死亡百七十五年にあたります。フランス
本國はもとより、世界のおもな國々では、おそらくこの記念の
年にふさわしいもおしが行われるのでしょうか、私はたゞ、
東洋の一つの島でこの年をむかえた今日、この偉大な思想家を

書評

生み出したはるかな環境を想像しながら、「記念の年」という
心持ちをこめて、前にかゝげた「J・J・ルッソーの諸著作の
總著書目録』をながめてみたいと思つたのです。(ただしこの書
物はルッソー死亡百七十五年記念のために出版されたものでは
ありません)したがつて、私がこゝで書くことはいわゆる
「書評」などというものではなく(このような性格の書物の批
評などはとうてい一人の小さな頭ではできないと思ひます)、
ふだんこのような着實な勉強を前進させている自分自身に
たいするいましめにほかなりません。

二 この書物の成立

私は、この源泉資料的勞作の編著者ジャン・セヌリエ Jean
Sénellier という人についてはなにも知識をもつていませんが、
こゝで最も注目すべきことは、著者の序文にもあるように、こ
の書物が、個人としては十八世紀のフランス思想についての第
一人者タニエル・モルネ Daniel Mornet 教授の協力をうけ
(「十一ページ」)「ちよび」より重要なこととして、それがフラン
スの「国立科學研究機關」Centre National de la Recherche
Scientifique (C. N. R. S.) の全面的援助のもとにまとめられ
ているといふことでしょうか(表題ならびに「十一ページ」)。廣く
知られているように C・N・R・S. というのは一九三九年に
ジャン・ペランの努力によつて創設され、とくに一九四五年の
解放後はフレデリック・ジョリオを中心として大規模に再編成

されたフランスの國立科學研究綜合機關⁽¹⁾です。そのほかこの書物が、ほとんど全世界にわたる圖書館の主要なカタログ類を参考⁽²⁾にしていることはいうまでもありません(二十六ページ)。

このような成立事情にこそ、この書物のもつ第一の大きな意義があるといえましよう。二百年も前に生きた一人の人間の著書目録を作成するために、一資本主義國家が全面的な援助を與えているという「現實」を目の前にして、今さらながら私は、學問というものの靜かな力強い姿を實感として感じないわけにはゆきません。

ルッソーのビブリオグラフィ⁽³⁾については、バルビエ⁽⁴⁾やデュッール⁽⁵⁾のものなどをはじめとして、すでに出版されているものをあわせれば、その數はけつして少いとはいえません。この著者は、ルッソーのビブリオグラフィやカタログだけについても四十三種類をあげているほどです(二八一—三〇ページ)。またうかつな私は、著者の言葉によつてはじめて、世界で古くからあれほど廣い層にわたつて讀まれていたはずのルッソーの諸著作について、ちみつに原典と照合して出版された校訂版ともいへべき書物がまだほんのわずかしか存在してゐないといふことを知りました。著者の説明によれば、一九二三年に公刊されたザン・ブヅェール編の『告白』⁽⁶⁾がその第一にあげられています。これにたいして校訂や注釋づけを行った批評版として⁽⁷⁾は、一九二五年に公刊されたニヘル・モルネ編の『新エロイヌ』⁽⁸⁾、一九一四年に公刊されたビエール・モリス・マン

編の『サヴォア人司祭の信仰の表明』⁽⁹⁾(これは「エミール」のなかで、とくにルッソーの宗教觀を知るうえで重要な部分を含んでいます)、一九四八年に公刊されたフック編の『ダランベールへの手紙』、またアメリカで編集され、一九三二年に公刊されたジョン・S・スピング編の『山からの手紙』と、同じくアメリカで一九四六年に公刊されたジョージ・R・ハーヴェン編の『學問藝術論』⁽¹⁰⁾があげられているにすぎません(九ページ)。「書物の大洋」をなすといわれるルッソーの他の大部分の諸著作については、その本格的な校訂版が出るのが世界でもまだこれから先の時代にぞくすることを知つた私はたいへんおどろきました。

(1) C. N. R. S. については東京工業大學の稻村教授がくわしく紹介されています。 稻村耕雄「フランスマの研究所」——C. N. R. S. の復活について—— 岩波書店發行、『思想』一九四八・十二(二九四號)、五六—六三ページ。

(2) A. A. Barbier: Notice bibliographique sur les diverses éditions des ouvrages de J.-J. Rousseau et sur les principaux écrits relatifs à sa personne et à ses ouvrages. Paris, Impr. de F. Didot, 1836. in-8° (4e édition) de 44 p.

(3) Théophile Dufour: Recherches bibliographiques sur les Œuvres imprimées de J.-J. Rousseau. Paris,

Giraud-Badin, 1925. 2 vol. in-8°.

(4) J.-J. Rousseau. Les Confessions. Édition intégrale publiée sur le texte autographe conservé à la Bibliothèque de Genève, accompagnée de variantes extraites du manuscrit de la Chambre des Députés, de notes et d'un index par Ad. Van Bever et suivie des Réveries du Promeneur Solitaire. Avez seize héliogravures hors texte. Paris, Les Éditions G. Crès et Cie, 1912, 2 vols. in-18 (Les Maîtres du Livre.)

(5) J.-J. Rousseau. Julie ou la Nouvelle Héloïse. Nouvelle édition publiée d'après les manuscrits et les éditions originales avec des variantes, une introduction, des notices et des notes par Daniel Mornet. (Suivi des Amours de Mllord Édouard Bonston.) Paris, Hachette, 1925, 4 vols. in-8°. (Les Grands Écrivains de la France.)

(6) La Profession de Foi du Vicaire Savoyard. Édition critique d'après les manuscrits de Genève, Neuchâtel et Paris, avec une introduction et un commentaire historique par Pierre-Maurice Masson. Paris, Hachette et Fribourg, Geschwend 1914, in-4°, ex-608 p., fac-similé. (Collectanea fribourgensta, nouvelle série). Fasc. XVI, n° XXV de la Collection.

(7) J.-J. Rousseau. Lettre à d'Alembert sur les Spectacles. Édition critique par M. Fuchs. Paris, Librairie Droz, 1948, in-16 (Les Textes Critiques).

(8) La première rédaction des "Lettres écrites de la Montagne". Publiée d'après le manuscrit autographe par John S. Spink ds: *Annales J.-J. Rousseau*, XX, 1931, p. 7-125 et XXI, 1932, p. 7-156.

(9) J.-J. Rousseau. *Discours sur les sciences et les arts*. Édition critique avec une Introduction et commentaire par George R. Havens, Ohio State University.

Published by the Modern Language Association of America. New-York, The Modern Language Association of America. London, Oxford University Press, 1946, in-8°, XIII-278 p. (The Modern Language Association of America, Monograph Series, XV)

三) 小説の記述

このジャンリケタノンナーは、縦約二十五センチ、横約十六センチの二百八十二ページをもつ書物で、そのにはルッソの諸著作の二千三百十九冊、ほかにルッソの諸著作にかんする書目やカタログが六十九冊をばらばらに記した。内容が二十章からなり、その分類は、第一章、詩、第二章、劇、第三章、音楽、第四章、音楽のいんづの著述、第五章、論文、第六章、

一橋論叢 第三十卷 第二號

ドラベンベルへの手紙、第七章 新エロイズ、第八章 社會契約について、第九章 エミール、第十章 山からの手紙、第十一章 ルッソー、ジャン・ジャックをさばく、第十二章 告白、第十三章 諸作品、第十四章 諸資料、第十五章 随想類、第十六章 選集類、第十七章 全集、第十八章 手紙、第十九章 版畫類、第二十章 偽作、となつています。

つぎに、各章ごとに、ルッソーの諸著作の出版事情の解説、そのマニエスクリプトならびに初版本の正しい表題とその所在、偽作の指摘、さらにフランス國內で出版された各版をはじめとして、その各國版(かならずしも各國語譯とはかぎりません)の詳細が整然とあげられています。そして、その各國版の範圍は、イギリス、アメリカ、ドイツ、イタリア、スペイン、ロシア、オランダ、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、デンマーク、スエーデン、ポルトガル、ギリシア、トルコ、チェコ、インド、中國などにわたつています。ただし、日本は、ルッソーの翻譯を多くもつているにもかかわらず、調査の對象にはなつていません。

四 いくつかの原典の紹介

つぎに、ルッソーの數多い著書のなかでも、とくにしばしば問題にされるいくつかの著作について、セヌリエ氏のビブリオグラフィから、そのオリジナル・テキストの正しい表題と、かんたんな出版事情および各國版の數だけを紹介したいと思ひ

ます。(以下、見出しとしてあげる日本語譯の題名は、日本で通俗的にいわれている譯語にしたがつたもので、原典の表題を忠實に譯したものではありません。)

〔學問藝術論〕

DISCOURS | QUI A REMPORTÉ LE PRIX | A L'ACADEMIE | DE | DIJON | En l'année 1750 | sur cette question proposée par la même Académie | Si le retablissement des sciences et des arts | a contribué à épurer les mœurs. | PAR UN CITOYEN DE GENÈVE. | *Barbarus hie ego sum quia non intelligor illic.* Ovid. | A GENÈVE, chez BARILLON et fils, s. d. (novembre 1750), in-8° (VII), 66 p. (註)

(註)① パリ國民圖書館 (R 49.585) およびジネホーヴ圖書館 (E 1829) に所蔵されています。

② この書物には、フランス版二十七、ドイツ版三、イギリス版九、スペイン版二、ハンガリー版一、イタリア版三、ロシア版一があります。

この論文は、ルッソーが、一七四九年七月二十四日以来ヴァンセンヌにとらわれの身となつていた友人デイドロを同年十月に訪問するようになつたころ、偶然手にした『メルキュール・フランス』誌(一七四九年十月號、一五三—一五五ページ)に廣告されていたデイジョン・アカデミーの「科學と藝術の復興

は習俗を純化するのたごうけんしたか」といふ一七五〇年度の懸賞課題に応募するために書いた論文で、一七五〇年七月九日に同アカデミーはルマンの論文の當選を決定、二十八日にルマンは金メダルと三百フランの賞金をもらった。

右でかゝげた原典では、この書物の發行地と發行所は A GENÈVE, chez BARILLOR et fils, s. d. といふことだが、『告白』の第八章で「この書物は、ルマンの友人 Pissot といふ書店から出版されたことになつてゐます。しかもルマンのゴブリエララフィー（前掲）にだけこの書物のついでに

Discours qui a remporté le prix à l'Académie de Dijon en l'année 1750.....Par un citoyen de Genève. Paris, 1750, in-4°. [Chez Pissot?]

ルン版と推定されるこの版ならば、『告白』の記述に合致しませんが、残念ながらこの版の所在は今日でも明らかになつていません。そこでモメリエ氏は、『學問藝術論』の成立にかんして、それが實際に印刷されたのはルマンの書店だが、それはルマンの要求によつて各自だけをシュネーゴのルマン書店としたのであらう、と推定してゐます。

【入間不平等起源論】

DISCOURS | SUR L'ORIGINE ET | LES FONDEMENTS | DE L'INEGALITÉ | PARMI LES HOMMES. | Par JEAN JAQUES (SIC) ROUSSEAU | CITOYEN

DE GENÈVE | Non in depravatis, sed in his quae bene secundum | naturam se habent, consideram dum est quia sit naturale. Arist. Politic. L. 2 | (Vignette). |

A AMSTERDAM, chez MARC MICHEL REY, 1755, in-8°, LXX (II) - 262 (II) p. Front. d'après Eisen. (註) ① ベルギー國民圖書館 (E 1909) に所蔵されてゐる。館一冊——(E 335; E 1453) に所蔵されてゐる。② この原典では DISCOURS, Par JEAN JAQUES ROUSSEAU, chez MARC MICHEL REY の文字が赤インクで印刷されてゐる。

③ この書物でかゝつては、一七五五年の初版のうちに三種類の偽作があります。

④ この書物では、フランス版十五、ドイツ版四、イギリス版六、アメリカ版一、デンマーク版一、スペイン版十一、ギリシア版一、オランダ版二、ハンガリー版一、イタリア版四、ポーランド版一、ベルトガル版一、ロシア版二があります。

この論文は、一七五三年十一月の『メルキュール・フランス』誌がディジョン・アカデミーの一七五四年度の懸賞課題として「人間の間における不平等の起源はなにか?」として、それは自然法によつて是認されるか?」といふ題を廣告したのにならして、ルマンがこれを応募するために書いたもので、一七五

一 橋 論 叢 第三十卷 第二號

四年六月十二日にジャンヌリーで書き上げられ、一七五五年八月二十日にはじめて公刊されたものである。しかし結局ジャンヌリーの論文は入選せず、この年にはヌ・マンヌール部が賞を授けなかった。

〔総覧録〕

これは一七五五年、『百科全書』の第五巻で發表された論文です。『百科全書』そのものの表題をみればはたしわけですが、単行本として出版された初版は、この年のことです。

DISCOURS | sur | L'ECONOMIE | POLITIQUE | PAR | MR. JEAN JAQ. ROUSSEAU | Citoyen de Genève | (Vignette) | A GENÈVE | chez EMMANUEL DU VILLARD FILS, 1758, in-8°, IV-75 p. (註)

〔註〕① ヌール国民図書館 (E 2685) 及びジュネーブ図書館 (E 334) に所蔵されています。

② この書物には、マンヌ版十、ヒュン版二、ブメリカ版一、イタリヤ版二がみられます。

〔ジャンヌールの手紙〕

JEAN JACQUES ROUSSEAU | CITOYEN DE GENÈVE | A M. D'ALEMBERT, | de l'Académie Française, de l'Académie Royale des Sciences de Paris, de celle de Prusse, de la Société | Royale de Londres, de l'Académie Royale des Bel | les Lettres de Suède et de l'Institut de Bologne. | Sur son article GENÈVE | Dans le VII^e volume de l'ENCY-

CLOPPÉIE | ET PARTICULIÈREMENT sur le projet d'établir un THEATRE DE COMÉDIE en cette ville. |

Du meliora più errorem que hostibus illum. | (Fleur-de-ron) | A AMSTERDAM. Chez MARC MICHEL REY, 1738 [15 juillet], in-8°, XVIII-264 p. (註)

〔註〕① ヌール国民図書館 (Z 11.856) 総共蔵図書館、ジャンヌール図書館に所蔵されています。

② この書物にかんしては、一七三三年版で偽作がみられます。

③ この書物には、マンヌ版十四、ヒュン版一、イギリス版一がみられます。

ジャンヌールは、一七五七年十月に發刊された『百科全書』の第七巻に「シメネーズ」と題する論文を書きました。その目的が、土地のおもな人たちと協同してシメネーズに劇場をたてることだったので、ルヴァンヌは、一七五八年の二月から三月にかけての三週間で、それに対する反對文を書き、これを同年十月に『ジャンヌールの手紙』として発行されました。

〔ジャンヌールとホロウベック〕

LETTRÉS | DE DEUX ANANS | Habitans d'une petite ville | au pied des Alpes. | RECUEILLES ET PUBLIÉES | PAR J.-J. ROUSSEAU. | Non la conabbe il mondo, mentre l'ebbe | como bill is cha pianger qui

rimasi. | Petrarc. | 4 AMSTERDAM | CHEZ MARC
MICHEL REY, 1761, 6 vols. in-12. Pl. d'après Gravelot.

Tome I. (XV), 407 (V) p.

Tome II. (IV), 319 (I) p.

Tome III. (IV), 255 (I) p.

Tome IV. (IV), 313 (V) p.

Tome V. (IV), 311 (I) p.

Tome VI. (IV), 312 p.

(註)

(註)① 初版の第一刷は造兵廠圖書館 (BL 20.867) および
ジュネーヴ圖書館 (Hf 2.762) に、第二刷は造兵廠圖書
館 (BL 20.868) に所蔵されています。

② 初版には「ジュネーヴまたは新エロイーズ」という題
名はついていません。しかし、マニエスタクリプトにはつ
いていません。

③ この書物にかんしては、一七六一年の初版のうちに
二種類、一七六二年版として三種類、一七六四年版、六五
年版、七〇年版として各一種類、一七七二年版として二種
類、一七七三年版、七五年版、七六年版、七八年版として
各一種類の偽作があります。

④ この書物には、フランス版百六、ドイツ版十五、イ
ギリス版二十二、アメリカ版三、スペイン版十七、オラン
ダ版一、ハンガリー版二、イタリア版十七、ポルトガル版
一、ロシア版一、チェコ版一、トルコ版二があります。

書 評

デビネ夫人の提供した「エルミターージュ」に移り住むようになつたルッソーは、一七五六年六月ごろからこの小説を書こうと思ひたち、同年末から五七年はじめにかけて『新エロイーズ』の第一部と第二部の執筆に着手しましたが、その後一時的にディドロとの仲たがいやドワット夫人との愛情問題などがあつて、結局は一七五七年七月に第一部と第二部とを完成しました。一七五八年九月十三日、ルッソーはアムステルダムでレイ書店主に、この小説がほとんど完成したと告げています。また一七六〇年十月二十八日付で、レイ書店主はルッソーにたいして大要つぎのような手紙を書いていきます。「ジュネーヴは四千部印刷していますが、そのうち二千部はフランス用としてパリのロバン書店で販賣してもらいます。半年もしくは一年拂いの條件で、一部八ポンドで賣ります。あとの二千部は當方で販賣しますが、そのうち約五百部をロンドン、ジュネーヴそしてドイツに送るつもりです。」このようにして『新エロイーズ』の新刊書は一七六一年一月に、その序文は二月十六日にパリで見られるようになりました。この書物にかんしては、ダニエル・モルネ教授の批評版(前掲)にきわめてくわしい考證があります。

「社會契約論」

『社會契約論』の初版にはつぎのように二つの型があり、デユフワールは後者をオリジナル・テキストとしています。

その後出版された各版はいずれも前者の表題をとつており、
セヌリエ氏はやはり前者をオリジナル・テキストとしていま
す。

Type n°1.

DU | CONTRACT SOCIAL | OU | PRINCIPES | DU |
DROIT POLITIQUE | Par J.-J. ROUSSEAU | *GR-*
ROYEN DU GENÈVE | Foederis oequas | Dicimus leges |
Aeneid. XI | (Vignette représentant la Justice debout) |
A AMSTERDAM, chez MARC-MICHEL REY, 1762,
In-8°, (IV), VIII-323 (1) p.

Type n°2.

PRINCIPES | DU | DROIT POLITIQUE | Par J.-J.
ROUSSEAU | *GRROYEN DE GENÈVE | Foederis oequas*
| Dicimus leges | Aeneid. XI | (Vignette représentant
la Liberté) | A AMSTERDAM | Chez MARC MICHEL
REY-1762, in-8°, (IV), VIII-323 (1) p. (H)

(註)① 兩版ともナリ國民圖書館に所藏をされています。前者
(8° Z 10.380 [20])、後者 (E 1.922)。

② この書物がかんしては、一七六二年の初版のうちに
五種類、一七七二年版として一種類の偽作があります。

③ この書物には、フランス版八十一、ドイツ版十五、
イギリス版十四、アメリカ版七、デンマーク版二、メキシ
コ版四十一、ギリシア版一、オランダ版二、ハンガリー版

三、イタリア版二十二、ポーランド版二、ポルトガル版二、
ロシア版五、チェコ版二、トルコ版一があります。

一七四三年九月四日ヴェニスに於いたルッソーは政治に関心
をもつたことなり、「政治制度論」を書くことと構想をねつてい
ましたが、實際にその資料を集め出したのは一七五二年以後の
ことでした。一七五四年八月一日にジュネーヴの市民権を獲得
した彼は、そこで行われていた貴族主義者と民主主義者との政
治闘争を見事ににつけて、ますます「政治制度論」の構想を進め
るようになりました。しかし、一七五九年になつて、彼はこれ
まで心に思つていた野心的な「政治制度論」という題目は一應
やめたとして、これを『社會契約論』と變えて、一七六一年まで
筆をこつていきました。そして一七六一年八月九日付のブラス
ルヌムのイン書店主あつての手紙ではじめてこの書物の完成を告
げています。そして同書店で一七六二年三月十一日に最後の校
正がおわり、四月に刷りあげられました。なおこの書物は一時差
し押えなどをうけたので、出版後すぐにはフランス國內に入り
ませんでした。次第に秘密出版などによつてひろまつたので
す。

(ヒシール)

ÉMILE | OU | DE L'ÉDUCATION | Par J.-J. ROU-
SSEAU | *citoyen de Genève | Sanabilibus oegratamus ma-
lis; ipsaque nos in rectum genitos natura si emendari*

veilmus, juvat | SEN. De Irá L. II. c. 13 | (Vignette par Eisen) | A LA HAYE | Chez JEAN NEAUME, Libraire | 1762 | Avec privilége de Nos Seigneurs Les Etats de Hollande et de Westfrise, 5 parties en 4 vols. in-8°.

Tome I. VIII(1)466 (III) p.

Tome II. (II)407 p.

Tome III. (II)384 p.

Tome IV. (II)455 p. (註)

(註)① 不列顛國民圖書館 (R. 2992) に所蔵されてゐます。

② この書物にかんしては、一七六二年の初版のうしろ六種類、一七六四年版および六五年版として各一種類の偽作があります。

③ この書物には、フランス版九十九、ドイツ版三十九、イギリス版十九、アメリカ版七、オランダ版一、スペイン版二十二、オランダ版八、ハンガリー版六、インド版一、イタリヤ版二十三、ポーランド版二、ホルトガル版一、ロシア版六(七)、ロシア版二、メーテン版二、チェコ版九、トルコ版六があります。

一七五九年五月以來ルッソーは『エミール』を書く構想をもち、モンモランシーの城で十二月まで休みなく執筆をつづけ、一七六〇年の夏に草稿を完成しました。そこで、その出版をバリのデュシェーヌ Duchesne 書店主のために一七六二年五

書 評

月二十日付の『ハーヴェン』を各社に送られた。この本の出版に必要の田舎を知らずして A LA HAYE, Chez JEAN NEAUME. 出版された。その『ハーヴェン』の出版に必要の田舎を知らずして出版された。その出版に必要の田舎を知らずして出版された。

(註) 不列顛國民圖書館 (R. 22352 a 22354) に海軍図書館、サン・ド・シメオン・ウーヴル図書館、シエノーヴ図書館 (C. 12, 13) に所蔵されてゐます。

(註) 不列顛國民圖書館 (R. 22352 a 22354) に海軍図書館、サン・ド・シメオン・ウーヴル図書館、シエノーヴ図書館 (C. 12, 13) に所蔵されてゐます。

ÉMILE | OU DE | L'ÉDUCATION | Par J.-J. ROUSSEAU | citoyen de Genève | Sanabibus cegratamus malis; ipsaque nos in rectum | genitos natura si emendari veilmus juvat | Sen. De Irá L. II. c. 13 | (Vignette par Eisen) | A AMSTERDAM, Chez JEAN NEAUME

Libraire | 1762 | Avec Privilége de Nos Seigneurs Les Etats de Hollande et de Westfrise, 5 parties en 4 tomes in-12. Tome I. (VIII)-X (II)442 p.

Tome II. (IV)-383 (I) p.

Tome III. (IV)-328 p.

Tome IV. (IV)-463 (I) p. (註)

(註) 不列顛國民圖書館 (R. 22352 a 22354) に海軍図書館、サン・ド・シメオン・ウーヴル図書館、シエノーヴ図書館 (C. 12, 13) に所蔵されてゐます。

Genève, 1782, 2 vols. in-8°, 188 et 281+300 p. (188 et 281 p. ayant 40 lignes à la page; 300 p. ayant 27 lignes à la page.) があげられています。この版についてはなんの説明もなく、所在も不明なので、現在これをオリジナル・テキストと断定することはできません。

したがってセマリエ氏も、疑問を残したまゝ一應、カルマル氏の考證によつて、前掲の書物を『告白』のオリジナル・テキストと推定してゐます。同じように、『告白』の第二部についても、この書物が原典としてあげられず。

Second Supplément | à la | Collection | des | Œuvres | de | J.-J. Rousseau | citoyen de Genève | Tome premier (second, troisième) (Fleuton), Genève, 1789, 3 vols. in-8°

Tome I, 439 p.

Tome II, 403 p.

Tome III, 435 p.

その分冊本についてはこのものがありません。

Seconde Partie | des | Confessions | de | J.-J. Rousseau | (Fleuton) | A Genève | 1789, 2 vols. in-8° (IV), 394 et (IV), 542 p. (註)

(註) ナッ國民圖書館(8° Ln² 17,967 A)・造兵廠圖書館・

サント・ジュヌヴェイネーヴ圖書館に所蔵されています。

一七六〇年から六二年にかけて、パリのレイ書店主はルッソに、その全集の巻頭を飾るにふさわしい自傳を書くようにな

のみでしたが、ルッソはこれをことわつていました。しかし、一七六四年にふたたびレイとデュクロからそのたのみをうけたときには、彼も執筆を決意して、一七六六年から六七年にかけて、ウットンで『告白』の第一章から第四章までと第五章の一部とを書き、第二部は一七六七年六月から六八年六月までの間にトリの城で、そして一七六九年から七〇年四月までの間にモンカンで書き、十二月にパリに歸つてから最後までを完成しました。そして一七七〇年末から七一年のはじめにかけてはじめてパリで『告白』の朗讀會が行われました。しかし『告白』が書物となつたのはルッソの死後四年を経過してからです。

『言へびにおじず』の勇氣をもつて、手あたり次第にルッソのよきな「思想史上の人々」と對決することが、古典思想の近代的・科學的解明を背負つた現代社會科學徒の實踐的課題であるとするならば、思想家ルッソを解明するためにひとつの着實なアプローチを試みられたセマリエ氏のビブリオグラフィのよきなものは、まさに好事家の暇つぶしとして、「思想」の彼方に吹きとばされる運命にありましよう。しかし、偽作や不完全な版本によらないで、ルッソそのもの「原典」によつてその思想を源泉資料的に、そして正確に學ぼうという實踐的課題をもつ人々にとつては、このビブリオグラフィの存在は、ルッソ研究にかんするかぎり、今日までの私たちがもち得た最も重要な案内の書になりましよう。

もちろん、著者もことわつていようように(十一ページ)、この書物がすべての點において「完全」であるはずはありますまい。そのひとつとして、身近かたにまずしい源泉資料しかもたない私たちとしてこの書物にたよることが大きいだけに、私は、この書物が、つぎの版を重ねるであろうときに、いくつかの誤植の訂正されている状態にあることを期待したいと思ひます。著者は、とくにこういう書物の性質として、書名をあげる場合には文字どおり一字一句をきわめて慎重にあつています。それだけに、私たちは、その一字一句に大きく左右されなければならぬのです。このビブリオグラフィを正しく批判すべき能力と材料とをもたない私は、この書物から多大の恩恵を受ける一利用者として、その點だけを希望します。

最後に私は、社會思想史を學ぶ一學生として、ルッソー死亡百七十五年をむかえた今日、この勞作を手にし得たことを心からよろこぶとともに、このような調査・研究を可能にさせた「環境」ならびに、そのなかでこの研究を完成された著者にたいして深い尊敬の念を表明し、さらに、この書物のなかで指摘されているような正確な資料を基礎として、ルッソーのもつ時代的意義が正しく、廣く、そして可能なかぎりやさしく、私たち人民の間に傳えられることをよく期待します。

(1) この意味における現存の世界的ルッソー學者として、私たちは、まず、ソルボンヌ大學のダニエル・モルネ教授ならびにオハイオ州立大學のジョージ・R・ハーヴェンス

教授の名前をあげるべきでしょう。

(2) たとえば、「一五六ページ」、「二四九」の四行目の Rever は Bever となるべきでしょう。二六八ページの「二三五」の五行目の University Press は University Press、となるべきでしょう。また、同じ個所の六行目の The Modern……は (The Modern……となるべきでしょう。

(一九五三・六・八)

追記——一九五三年七月一日からソ連では「ルッソー死亡百七十五年」の記念行事が行われ、ルッソーの諸著作ならびにそのロシア語譯の書物の展示會が開かれました。^(註)

(註) A. F. P. "Le monde des lettres", XXXVIII, No. 17450, p. 15.

(一九五三・七・十一)

執筆者紹介

浅野順一……………青山學院大學教授
藤井義夫……………一橋大學教授
藤田健治……………お茶の水大學教授
縫田清二……………横濱大學講師